

2020年12月期連結決算資料サマリー^{①②}

前提：

- ①連結財務諸表を要約、編集したものです。
- ②連結対象には、当社国内子会社とエストニア子会社が含まれます。一方で、ペルー子会社及びメキシコ子会社は重要性の観点から、連結対象外としております。
- ③わかりやすさを重視し、「当社グループ（G）に帰属する分」と「お客様の預託金及びご出資頂いているファンド（匿名組合契約）に帰属する分」を区分して表記してあります。

連結貸借対照表サマリーに関するコメント：

- ④2020年5月に、丸井グループ、ソニーフィナンシャルベンチャーズ、グローバル・ブレインより出資を受け、財務基盤を強化しております。
2021年においても追加の資金調達を行い、資金調達額は合計で約11億円となり、2021年4月末現在では表示金額よりも多額の手元現金を有しております。
- ⑤月次のファンド販売額については、2020年3月以降は一時的に減少したものの徐々に回復し、2020年12月以降は2019年度並の水準となっております。2021年1-3月期においても当該基調を維持し、予算を達成しております。
上記の結果、ID登録者数約4.3万→5.0万、出資者数約1.9万→2.2万、預り資産残高約147億円→157億円と緩やかながらも事業規模は成長しました。
なお、クラウドクレジット株式会社単体の決算公告は[こちら](#)になります。

連結損益計算書サマリーに関するコメント：

- ⑥ファンド販売額は昨年度より減少したものの、手数料の適正化を引き続き進めたことにより売上高は増加いたしました。
- ⑦売上原価は大幅に増加いたしました。これは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響に伴う新興国通貨の下落によるファンドにかかる為替評価損の発生及び、貸付先の財務状況に応じた貸倒引当金の追加計上によるものです。
- ⑧販売費及び一般管理費は減少いたしました。これは、徹底したコストコントロールの継続に加え、COVID-19の拡大による影響（海外出張の取り止め、マーケティング活動の見直し）によるものです。
主な内訳は人件費、マーケティング費用、セキュリティ強化・外部専門家への支払報酬料含む体制整備費用となります。
- ⑨マーケティング費用のうち、ファンドを購入されたお客様に対して支払った金額は、収益認識に関する会計基準において「変動対価」に該当するため、売上高から減額しております。
なお、比較可能性の観点から、当該連結財務諸表では、2019年12月期においても同様の処理を行っております。これにより売上高から減少した金額は、2019年12月期：10百万円、2020年12月期：27百万円となっております。

1. 連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円)

勘定科目	連結貸借対照表		構成比	コメント	
	当社G帰属分 ^③	ファンド帰属分 ^③			
資産の部					
現金及び預金 ^④	674	—	674	手元現金	
預託金等	—	3,875	3,875	お客様からお預かりしている預託金	
営業貸付金等 ^⑤	33	13,607	13,640	貸付運用残高（未収利息、引当金等含む）	
その他流動資産	56	—	56	家賃等前払費用、未収消費税ほか	
流動資産計	764	17,483	18,248	99.9%	
固定資産	4	—	4	0.0%	リース資産、PC、ソフトウェア等
投資等	13	—	13	0.1%	敷金、差入保証金等
固定及び投資資産計	18	—	18	0.1%	
資産合計	783	17,483	18,266	100.0%	
負債の部					
顧客預り金等	—	17,483	17,483	お客様の出資金勘定（主に匿名組合へ出資中、一部預託金などの預り分を含む）	
その他流動負債	201	—	201	借入金、経費未払金、預り金、リース債務等	
負債計	201	17,483	17,684	96.8%	
純資産の部					
資本金	50	—	50		
新株式申込証拠金	9	—	9		
資本準備金	1,364	—	1,364		
その他資本剰余金	1,369	—	1,369		
繰越利益剰余金	△ 2,149	—	△ 2,149		
株主資本	643	—	643	3.5%	
為替換算調整勘定	△ 61	—	△ 61		
純資産合計	582	—	582	3.2%	
負債・純資産合計	783	17,483	18,266	100.0%	

2. 連結損益計算書サマリー

(単位：百万円)

勘定科目	連結損益計算書		売上高比	コメント
	当社G帰属分	ファンド帰属分		
外国利息収入	156	1,685	1,841	主としてエストニア法人から貸付先への貸付金利息収入
営業者報酬等	304	—	304	ファンド販売時にお客様から収受する手数料収入等
売上高^⑥	461	1,685	2,146	100.0%
売上原価 ^⑦	79	1,691	1,771	上記外国利息収入にかかる為替評価、貸倒引当金繰入他
匿名組合損益分配前売上総利益	381	△ 6	375	17.5%
匿名組合損益分配額	—	△ 6	△ 6	ファンド（匿名組合）帰属損益分配額
匿名組合損益分配後売上総利益	381	—	381	17.8%
販売費及び一般管理費^{⑧⑨}	815	—	815	人件費、広告宣伝費、外注費、支払報酬料等
営業損益	△ 434	—	△ 434	-20.2%
営業外・特別損益	△ 20	—	△ 20	利息収支、為替、付加価値税免除益、株式評価損等
税金等調整前当期純損益	△ 454	—	△ 454	-21.2%
法人税等	1	—	1	均等割、調整額等
当期純損益	△ 455	—	△ 455	-21.2%

3.前期比較

連結貸借対照表

(単位：百万円)

勘定科目	連結貸借対照表		前期比較		増減コメント
	2019年12月末	2020年12月末	増減額	増減比	
資産の部					
現金及び預金 ^⑤	413	674	261	63%	資金調達により財務基盤を強化
預託金等	3,440	3,875	435	13%	
営業貸付金等 ^⑥	12,795	13,640	845	7%	月次のファンド販売額は、2020年3月に一時的に減少したが徐々に回復、2020年度後半には2019年度並の水準へ ID登録者数約4.3万→5.0万、出資者数約1.9万→2.2万、預り資産残高約147億円→157億円と緩やかながらも事業規模は成長
その他流動資産	57	56	△1	-2%	
流動資産計	16,707	18,248	1,540	9.2%	
固定及び投資資産計	115	18	△97	-84.3%	
資産合計	16,823	18,266	1,443	8.6%	
負債の部					
顧客預り金等	16,215	17,483	1,267	8%	事業規模拡大により増加
その他流動負債	243	201	△42	-17%	
負債計	16,459	17,684	1,224	7.4%	
純資産の部					
株主資本	390	643	253	64.9%	
為替換算調整勘定	△26	△61	△35	134.6%	
純資産合計	363	582	218	60.1%	
負債・純資産合計	16,823	18,266	1,443	8.6%	

連結損益計算書

(単位：百万円)

勘定科目	連結損益計算書		前期比較		増減コメント
	2019年12月末	2020年12月末	増減額	増減比	
外国利息収入	1,491	1,841	350	23.5%	
営業者報酬等	344	304	△39	-11.3%	
売上高^⑦	1,836	2,146	310	16.9%	ファンド販売額は昨年度より減少したものの、手数料の適正化を引き続き進めたことにより売上高は増加
売上原価 ^⑧	699	1,771	1,071	153.2%	①新興国通貨下落による為替評価損、②貸付先の財務状況に応じた貸倒引当金の追加計上により大幅に増加
匿名組合損益分配前売上総利益	1,136	375	△761	-67.0%	
匿名組合損益分配額	635	△6	△641	-100.9%	
匿名組合損益分配後売上総利益	501	381	△119	-23.8%	
販売費及び一般管理費 ^⑨	881	815	△65	-7.4%	コストコントロール徹底及びCOVID-19の拡大による影響（海外出張の取り止め、マーケティング活動の見直し）により、昨年度対比減少
営業損益	△380	△434	△53	—	
営業外・特別損益	△24	△20	4	—	
税金等調整前当期純損益	△405	△454	△48	—	
法人税等	△15	1	16	—	
当期純損益	△389	△455	△65	—	売上原価増加の影響を受け、当期純損失は拡大

4.2021年12月期の見通しと現況

2021年度第1四半期（1-3月）については昨年度末からの回復基調が継続し、ファンド販売額は計画値を上回りました。

また、費用面においては、投資効率をより厳密に意識した運営を行うことで、対計画値でコスト削減を実現しております。

結果、2021年度第1四半期は対計画比で赤字幅の大幅な縮小を達成しております。

今後は、主に株主を中心とする金融機関・事業会社との連携を通じた集客・需要喚起に加え、再投資促進活動についても継続して注力することで、

業績の着実な成長及び安定した収益の確保を目指してまいります。

